

## 再発防止策に関する司法試験委員会決定について

平成19年9月13日  
法務省大臣官房人事課

司法試験委員会においては、植村栄治元新司法試験考査委員による不適正な行為が判明した以降、再発防止策を検討してきたところですが、昨日、今後の新司法試験について、以下の方針が決定されました。

### 1 (1) (新司法試験考査委員の数について)

問題作成に従事する考査委員については、学者の考査委員の数を絞り込み、試験実施後、採点のために必要な考査委員を追加して任命することとする。

具体的には、問題作成に従事する考査委員の数を、必須科目については、各科目、学者3名(民法のみ4名)、実務家8名とし、選択科目については、各科目、学者2名、実務家3名とする。

また、問題作成に従事する実務家の考査委員については、任期中、法科大学院で指導しない者に限ることとする。

これらにより、平成19年の体制では、考査委員のうち101名が、任期中、法科大学院で指導していたところ、平成20年の体制では、これが38名となる。

### (2) (新司法試験考査委員の遵守事項の策定について)

問題作成に従事する考査委員については、任命から試験実施までの間、自己が問題作成に従事した新司法試験の受験生となる法科大学院3年生や修了生に対する指導をしないこととするなど、新司法試験考査委員の遵守事項を定めた(別紙のとおり)。

ただし、平成20年の新司法試験においては、既に、各法科大学院におけるカリキュラムが策定済みであることなどを考慮し、問題作成に従事する考査委員が、任命から当該年度末までの間、正規の課程において、法科大学院3年生に対する指導を行うことは差し支えないこととする。

### 2 当分の間、慶應義塾大学大学院法務研究科の教員を、新司法試験考査委員として推薦しないこととする。

## 新司法試験考査委員の遵守事項

新司法試験考査委員は、秘密の漏えいはもとより、試験の公正さに疑念を抱かせかねない行動をとることのないよう、十分に留意するとともに、以下の事項を遵守する。

- 1 問題作成に従事する考査委員は、その名目いかんを問わず、以下の指導を行わない。
  - ア 任命された日から翌年3月31日までの間における、当該年度末までに法科大学院を修了予定の学生及び法科大学院修了生に対する指導（ただし、平成20年新司法試験考査委員が正規の課程により指導する場合を除く。）
  - イ 任命の翌年4月1日から新司法試験の実施が終了するまでの間における、法科大学院修了生に対する指導
  
- 2 平成20年新司法試験の問題作成に従事する考査委員が、任命された日から翌年3月31日までの間に、当該年度末までに法科大学院を修了予定の学生を対象とする正規の課程を担当する場合には、あらかじめ取り扱う題材や法律上の問題点等を記載した授業計画を示した上で、できる限り、これに沿って授業を行うものとするか、又は、授業内容や方法を記載したものを公表するものとする。

なお、この場合、各考査委員において、授業内容の記録、あるいは、配布物を保管するなどして、実施した授業内容について、事後に明らかにできるような措置を講じるよう努める。
  
- 3 問題作成に従事する考査委員は、いかなる場合においても、任命から新司法試験の実施が終了するまでの間に、司法試験受験生らに対し、出題の論点や題材について、示唆を与える結果となることのないよう、十分に留意する。
  
- 4 任期中、受験予備校、受験指導組織、司法試験受験を目的とするグループへの関与は行わない。
  
- 5 任期中及び任期後にわたり、考査委員として問題作成・採点等に従事した新司法試験の論文式試験について、その解答作成方法を指導したり、作成された解答を採点・添削指導したりすることはしない。

また、考査委員として問題作成・採点等に従事した新司法試験の論文式試験に関して言及する場合に、出題の趣旨等公表された情報を超えて、問題作成・採点等に従事した考査委員にしか知り得ない秘密情報が、特別に提供されたのではないかという疑念を抱かせることのないよう十分に留意する。